



卷頭言

「持ちつ 持たれつ」

～あなたがたも互に愛し合いなさい～ ヨハネによる福音書13章34節～35節

むさしの教会牧師:浅野 直樹Jr.

私は思い違いをしていました。十五（歳）で教会の門を叩き、二十歳で洗礼を受けましたが、その後もずっと思い違いをしてきたように思います。「愛」について、です。

皆さんがどうだったかは分かりませんが、私が教会を訪れた動機の一つは、愛の教えでした。愛に生きることに憧れて、教会の門を叩いたのでした。

ですから、自分なりに「愛に生きられるようになりたい」と思っていました。そのために、僅かながらも励んできたつもりです。教会では、神さまの愛は見返りを要求しない一方的な愛なのだから、あなたがたも、そんな神さまの愛にならって人々を愛しなさい、と教えられました。また、聖書にはこんな言葉もあります。「主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました」（使徒言行録 20：35）。

ですから、愛に生きるということは、愛される側ではなく愛する側に、相手のために何かを成していく側に立ち続けていくことなのだ（もちろん、神さまの愛はいただくのですが、人に対しては）と理解したのです。今から思うと、随分といびつな理解でした。ですから、誰かに何かをしてほしいと要求したりはしません。助けも求めません。別に意固地になっているのではありません。愛に生きるとはそういうことだ、と思い込んでいたのです。結果的に（意図していたわけではありませんが）相手の善意を拒んでしまっていました。

しかし、次第におかしいと気付き出していきました。そう、愛に生きるようにと押し出されているのは、何も私だけではないからです。相手もまた愛に生きるように押し出されているはず。ということは、その相手の善意を受け入れないということは、相手の愛の機会を奪うことであり、それは、決して相手を愛していることにはならないのではないか。そう、思うようになったのです。

つまり、相手を愛することは、こちらが一方的に相手に愛を注いで、なんでもかんでもこちらからしてあげるのではなくて、相手の愛の行為を妨げない、その人にも愛の機会を持っていただく、相手がこの私にしたい、と思ってくれていることを感謝してありがたく受け入れていく。それも、相手を愛することにつながるのではないか（当たり前のことかもしれません）と、遅まきながら気づかされていきました。

イエスさまはこうおっしゃいました。「互いに愛し合いなさい」。「互いに」です。一方的ではないのです。相手の愛する権利を奪ってもいけないです。わたしも、あなたも、愛に生きる。イエスさまの愛を知らされたから。だから、愛されていい。愛していい。お互い様。

持ちつ持たれつ。このことを、今日、もう一度、ここで確認させていただければ、と思っています。



第5回“会長会＆女性の集い”から

4月8日(土)むさしの教会に於いて第5回会長会＆女性の集いが開催されました。教会前庭の満開の桜(杉並区の保護樹林)が私たち来会者を歓迎してくれました。年度替わりの入学式ラッシュの合間でお天気も守られて、69名の方が来会されました。

*第一部開会礼拝では浅野直樹Jr.牧師の祈りと奨励「持ちつ持たれつ」:ヨハネによる福音書 I 3章34節～35節「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」からお話をいただきました。わたしたちが与えられているこの“土のうつわ”に感謝し愛と喜びを持って他者と繋がっていかれますようにと祈りを新たにしました。

*昼食休憩ではむさしの女性会と男性有志！が調理してくださったお弁当と手作りケーキ、茶菓とコーヒーのおもてなしに感謝と共に腹がいっぱいに。

“つながりを”信じて



東京教会 * 三澤 玲子

幼少の頃、鷺宮で育った私は、何故かあまり変わっていない街なみを懐かしい想いで教会にたどり着くと、とても良い香りがして、男性有志の方々が、私達の為に昼食のお弁当を作っていましたので驚いてしまった。

この教会は、男性、女性を問わず、何でも協力なさっているのだと、新しい教会のあり方を学んだ気がした。

礼拝では、浅野牧師が、「持ちつ、持たれつ」という題で、相手を愛するだけが愛に生きることではなく、受ける方も相手の愛を受け入れることが大切であるとお話し下さいました。

引き続き、各委員のアピール、午後は、小勝奈保子牧師の「身近にあるドメスティックバイオレンス」についての講演、そして、各教会の女性会の実情と活動について話しあわれたが、初めて出席した私にとっては、大変参考になることも多く、教会に持ち帰りたいと思った。



心が温かくなり、穏やかな時間



日吉教会 * 坪本 告子

落ち着いた佇まいのむさしの教会のアンティークなステンドガラスと彫刻、お洒落な十字架、テーブルに生き生きとした生花が置かれ、他教会の活動を見させて頂く事が出来ました。休憩室の窓から、満開の桜を眺めながら、懇親タイムが行われ、各教会の女性会の励ましや、お話しを伺いました。女性会での心地よい、明るく楽しい雰囲気の会を継続されている会の活動に参加させて頂く恵に感謝致します。

役員方々のきめ細やかな心使いや気配り、手作りケーキ等のサプライズもあり、目的を持った信仰生活のお話し等、心が温かくなり、穏やかな時間を過ごさせて頂きました。

午後から、「癒し：自分を大切に。隣人を大切に。」小勝奈保子牧師のご案内で学びの時がもたらされました。社会通念や男女の経済的格差が等から社会的の優位な立場の人が、弱い立場の人を支配しようとする事が仕方ないと容認する、DV(ドメスティック・バイオレンス)について学びました。被害者



の置かれている深刻な状況や不安をよく聞き理解してあげられる事ですが、相談員、信頼して相談支援出来る環境が充実していればと思います。

配偶者を引き離してほしいと訴えても繰り返してしまう被害者が、保護・相談を受けられない現状があります。沈黙の暴力である性暴力にあい、誰にも言えずにいる被害者に勇気を持つ事は大変難しいです。被害者を第一に考えて下さり、(宗)カトリック中央協議会「子どもと女性の権利擁護のためのデスク」が窓口となって、支援して下さいます様にお祈りします。「今は神を知っている、いや、むしろ神から知られている」ガラテヤの信徒への手紙4:9

人格的関係が喜びと安らぎある関係を育てる様になりたいです。小勝牧師から、「☆さん(被害者)には、光があります。」と、おっしゃられたお言葉に感謝致します。

＊第二部は「身近にあるドメスティック・バイオレンス」について小勝奈保子牧師(聖パウロ教会)に講演していただきました。NHK番組:クローズアップ現代「密着・DV対策最前線」の映像を観て説明を受けながら、私たちの実生活の中で見過ごしがちなことがあぶり出されてきました。「DVとは何?何故おきるのか?被害に会ったらどうするか?虐待の連鎖を断ち切るには?」…助けを求める姉妹たちを理解し、繋がるには…今後の課題が少しずつ見えてきた貴重な一日となりました。

身近にあるDV(ドメスティック・バイオレンス)

あなたは?私は?

聖パウロ教会牧師:小勝奈保子 4/8講演会レジュメから

1.クローズアップ現代(NHK)「密着・DV対策最前線」2016年5月11日

- どうして逃げないのか?逃げないのでなくて、逃げられない理由がある

2.DV(ドメスティック・バイオレンス)

- 身体的暴力・精神的暴力・経済的暴力・性的暴力・社会的暴力
- デートDV(交際関係)、バタラー(加害者)、アドボケイター(支援者)
- DVのサイクル(緊張期→爆発期→ハネムーン期 繰り返す)→エスカレート
- パワーとコントロール(支配):暴力によって被害者の自尊心を傷つけ、劣等感を植え付けることで、自身を喪失させ、加害者の優位性を刷り込ませる。
- DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)平成13年施行

3.DV防止法

- 支援の流れ
相談→一時保護→民間シェルター、母子生活支援施設(緊急一時保護)
配偶者と離れたい→保護命令の申し立て→地方裁判所→被害者
親族などへの接近禁止命令、電話など禁止命令、(面会の要求、夜間の電話など、被害者と共に住む住居からの退去命令)
- 相談の窓口 例:東京
・市区町村の配偶者暴力相談支援センター(男女共同参画センター、女性センター)

・警察

- 東京都配偶者暴力相談支援センター(東京ウィメンズプラザ)→一時保護

4.被害者的心ケア

- 急性期:暴力が振るわれる 避難が必要
- 初期:生活の再建 住居、子どもの養育、仕事
- 中長期:トラウマ、PTSD(心的外傷後ストレス症候群)、うつ病、依存症

5.子どもの心ケア

- 面前DV=DVの目撃虐待(脳への影響)

6.性暴力

- ワンストップ支援センター 24時間対応(調整:病院・警察・弁護士)
- アドボケイター(専門支援員)が付き添う

7.あなたは?私は?

- もしかしてDVかも?
- あなたの住む地域にどんな支援があるのか?知る、繋がる
- 安心して暮らせる地域社会

8.DVと虐待の根絶に向けて

- 啓発予防と支援の強化(女性と子どもの人権、命と性の尊厳)
- 子どもと女性の権利擁護のためのデスク(カトリック中央協議会)相談窓口、冊子発行
- 被害者支援プログラム

『~有効な耕耘機~人はみなオンリーワン』森一弘著(聖パウロ会)より 4/8講演会参考資料から

多くの男女が、幸せへの夢を抱いて、親元を離れ、花嫁、花婿としてきれいに着飾り、周りの人々に祝福されながら、胸を膨らませ、一歩を踏み出す。

しかし、現実は甘くない。そこで、夢が破れ、花を咲かせることろか、心は枯れて、生きる喜びまで失ってしまう人もいる。

数年前のことである。ある地方教会の女性の会主催で企画された研修会に講師として招かれたことがある。テーマは、「家庭、家族」だった。

そこで、話のきっかけとして、わたしは、もう一度、人生をやり直せることができたとしたら、今の夫をもう一度パートナーとして選ぶかどうか、参加者に尋ねてみたことがある。大半が四十代以上の女性たちだったが、別の人を選ぶと答えた者が、実に半数を超えていた。今のパートナーを選ぶと答えた者は、わずかに三十パーセントちょっとだった。

肯定的な人たちの理由は、今の相手が、一に、優しいから、二に、自分を大事にしてくれるから、そして三に、かい性がない、お金にルーズ、などであった。

心優しく、自分を大事にしてくれる相手には、警戒心は消え、心も体もすべてを開いて、相手の中に飛び込んでいくことができる。一切の警戒心を持たずに互いの心が絡み合い交わる、そ

れこそ人間にとって最高の喜びであり、憩いとなる。

しかし、相手が身勝手で、暴力を振るう、となるとそれはいかない。心身は傷つき、心は固くなってしまって、閉じていく。なかには、うつになったり怒りをため込んだりしたまま、喜びと安らぎのないままに人生を終えてしまう人もいる。

相手の人柄や性格が明らかに異常で、その暴力も尋常でなければ、一人で悩まず、身近な信頼できる人に相談し、早々と離れたほうが、賢明である。

しかし、それほどでなければ、互いの善意を信じて、秋の収穫を目指して田畠に鍬を入れ、種をまき、水を引いたり雑草を取り除いたりしながらこまめに畠を耕す人のように、互いの心を耕していくことである。

二人が、それぞれ花を咲かせていくことのできる土壌を育していくためには、まずは、「ありがとう」と「ごめんなさい」という言葉を口にするよう努めてみることである。というのは、夫婦となった以上、二人は、基本的には互いに助け合い支え合おうとしているわけだから、目を開けば、いたるところに、「ありがとう」と「ごめんなさい」と口にする機会があるはずである。実に「ありがとう」と「ごめんなさい」は、岩のような固い土壌を和らげていくための最も有効な耕耘機である。



“甲信地区女性の集い”から

主は御心なしたまわん

6月10日、甲信地区女性会が松本教会を会場に開催されました。例年のごとく東教区女性会役員の皆さんもお迎えし、50名を超える多くの参加がありました。本年は、甲府教会、諏訪教会を担当している市原悠史牧師がルターについてご講演くださいました。これまで講壇交換などで市原先生のお説教を伺う機会はありましたが、講演は初めてでした。先生は、ルーテル神学校はルター派とは言え、あまりにルター一色で、大好きなバトルやボンヘッファーを学ぶ機会が少ないと反発を感じたりされつつも、『卓上語録』との出会いによってルターの印象が変わったと語られました。今は、「正しく神を知つてもらう」という共通の目的を持った先輩後輩の間柄のような身近さを感じると話して下さり、私達にとっても難解と思えることが多いルターとの距離感をグッと縮めてくださいました。

久しぶりに参加した甲信地区女性会は思いもかけない再会の場ともなりました。ランチを終え、互いに自由に語り、聞き合う午後的小グループの時間の中で、私が話していると、教区会計役員の岸田多希子さんが、かつて同じ教会で奏楽者として共に奉仕した間柄だったことに気づかれました。その上、彼女は、私の一言で受洗したこと話してくださいました。最後にお会いして40年を越える年月が経っているでしょう。お互い名前や



松本教会 * 牧 かずみ

所属教会も変わっています。ランチタイムに隣合わせで会話している間すら、どちらも気づかないままでいたのです。

主は御心なしたまわん。異なる場所で別々に歩んでいた二人を再びこんな風に繋げてくださった不思議を思います。奇しくも6月12日は、二人にとって共通の恩師が召天されてちょうど10年。恩師が会わせてくださったのかも知れません。神の想いは深く、自分のそれをはるかに超えている、と思わされたことでした。

詩編51:12-14 讚美歌494

在主



講演会「ルター先生と僕」*

シャロンの花 を訪ねて Vol.5

次世代に繋いでいく

羽村教会は、東京の西、奥多摩、立川からJR青梅線の中程にある羽村駅から徒歩10分弱のところにあります。多摩川の上流に位置する自然豊かな所です。羽村教会は、女性が多いので、教会の活動も女性会と教会と分けてという意識はなく、みんなでという思いで活動しています。今年は、ルターによる宗教改革500年という事で、女性会の学びも、高井牧師より深く教えていただいています。第3週の日曜日、礼拝後誰でもが参加しています。

一昨年からフィンランドより音楽担当のハンナ・ペティネン先生が派遣されていますので、フィンランドの音楽を中心に、クリスマス、イースターには、コーラスをしています。ここ数年は、東京でも折りの桜の名所が間近



共に賛美する喜びに溢れて*



小さな瞳・耳・心・体いっぱい集中*

羽村教会 * 土井 菜穂子

にあることから春の桜が咲く頃にミニバザーやカフェ等を開催して、東北震災を覚えて、売り上げを寄付しています。以前は、横田基地にも近く、基地のルーテル教会の方々と交流もありましたが、今は、途絶えています。

これから女性会、羽村教会の歩みには、若い方々の参加が望まれています。付属の羽村ルーテル幼稚園は少子化の影響で子どもが減少していますが、園庭の草花のお世話等を通して交流を深めたいと思っています。女性会は、これからも教会の活動を支え、宣教力のある教会にと会員ひとり、ひとりが5月の一泊修養会を通して、話し合いました。



イースター礼拝で*

*2016年に続き本年も初夏の清々しい風そよぐ中、教区役員全員が“甲信地区女性の集い”で松本教会を訪問いたしました。開会礼拝では野口勝彦牧師の奨励に始まり、市原悠史牧師「ルター先生と僕」講演もとても新鮮でした。初めての方との出会いや懐かし方々との再会も含めて、互いに気遣い、話し、祈り合い、繋がっている恵みを実感しながら楽しく充実したひと時を過ごすことができました。田畠の繁忙作業や様々な予定をやりくりして会の準備をしてくださった姉妹と兄弟方に心より感謝いたします。

~甲信地区女性の集いプログラム~

…2017.6.10…

担当:長野教会

11:00～ 開会礼拝

讃美歌 教会240 オルガニスト 渡邊 真理恵姉:飯田教会
祈り
聖書 ガラテヤの信徒への手紙3章7節～14節



奨励 野口 勝彦牧師

献金 宗教改革500年の働きの為に、ルター研究所の為に
讃美歌 教会450

礼拝後教区役員紹介:皿井 千穂子会長

11:20～ 講演「ルター先生と僕」市原 悠史牧師:諏訪教会
質疑応答

12:00～ 写真撮影:長野教会



12:30～ 昼食会



教会アピール



13:30～ グループ・フリートークA～F:松本教会

ルール:一人ずつ5分を目安に話す。他の人は黙って聞く。
発表は無し。必ず一巡する様に、譲り合いながら和気あい
あいとおしゃべりしましょう。

14:45～ テーマ例:教会の思い出、近況、教会生活ほか



14:50～ 閉会の祈り:皿井 千穂子会長



終わりの言葉:長野教会

14:50～ 終了



シャロンの花 を訪ねて Vol.5

うどん食堂45年&個性豊かなメンバーの力が育まれて

千葉教会 * 伊藤 正子

総武線稻毛駅から徒歩約5分の地にある千葉教会は、去年宣教60周年を迎えました。教会には45年の歴史を持つ女性会の「うどん食堂」があります。今年亡くなられたウェンツ宣教師は40周年記念誌に「礼拝後のひと時は、うどんを食べながらお一人お一人と知り合える楽しい時間でした。」と思い出を寄せています。今ではメニューも週替わりとなり、お昼の楽しみが増えたと好評です。その上、うどん食堂は礼拝堂の維持管理のための資金面のお手伝いもしています。

日曜礼拝の後のほっとしたひと時、教会のロビーではお茶の時間が始まります。時間の余裕のない人達との交わりの場として好評を得ています。これも女性会の働きです。

開かれた教会
活動の場として
千葉教会は4月
にバザー、アド
ヴェントにはコ
ンサート&ミニ
バザーを催して
います。食堂を
開き、手作り品
を取りそろえ、



甘露のごとき一服をどうぞ*

地域の皆さんに喜ばれる活動も女性会の仕事です。さらに外部の人と積極的に関わるように隔月に「歯車の会」があります。

聖壇の花活け、イースター、クリスマス祝会の食事持ち寄りも女性会の大切な役目です。第一日曜日の午後には壮年会と合同で女性連盟の「聖書研究」を読み、瞑想の時を持っています。定期集会はその後に開かれ、意見交換をしたり、教会に集えない人達を想い・寄せ書きを送ったり、個性豊かなメンバーの団結力・実行力が育まれています。



準備万端、さあ！バザーの開始*

❖石巻にみちびかれて



大森教会 * 竹田 久美子

大川小学校被災跡地を訪れた。すぐ側を北上川がゆったりと流れ、緑豊かな山、広々とした空き地。大型ダンプが行きかうことの他は、のどかな風景に思われた。しかし、それは全く違っていたようだ。この場所には民家が立ち並び、多くの方々が住んでおられたと聞いた。北上川から逆流した津波が、住宅を校舎を押し潰し景色は一変してしまったという。復興の課題の中で、大川小の存続もそのひとつ。6年半が過ぎ、奇しくも助かった児童自身の「残してほしい、全ての人が見届けるまで」と声をあげ決定したそうです。どんなに辛く、悲しい思いをしながら言葉にしたのかと聞きながら胸がいっぱいになった。

雨の一日、仮設住宅訪問。どちらでも歓迎して頂きこちらの方が恐縮してしまった。集会所に皆で集い、手作りする事が励みになっておられる様子。来年から復興住宅に順次引越が始まるそうで、これから手仕事もどのような形になるか模索中だそうだ。変化の中、変わらず支援していかなくてはと思われた。

十三浜のわかめ漁家では、次々と新しい商品を開発され私達に届けて下さっている。

最後に前浜コミュニティセンターへ向かつた。ルーテル震災救援によって建てられ、地域で無くてはならない施設に

なっていると、たくさんの感謝と喜びが伝えられた。建物は色々工夫がこらされていて皆さんが楽しく活用されている様子が伝わり、こちらも嬉しくなった。

三日間、中身の濃い訪問、交わり、感謝で一杯です。思いはたくさんあるのですが、言葉にならず上手に伝えられぬもどかしさを覚えます。遠く離れたところで何もできないが「忘れない」でこれからも思い祈り続けることが私にも出来る事かなと思った。神様と皆に感謝。



シャロンの花 を訪ねて Vol.5

自然豊かな土地に根付き、福音に感謝しつつ歩んで

飯田教会 * 古田 法子

飯田教会は、1908年に、フィンランドの宣教師によって宣教された、歴史のある教会であります。

平成に入り、ペランデル・ピルヨ先生が、フィンランド福音ルーテル教会から来てくださいました。先生は、教会はもとより、幼稚園の中に入り、園児たちとも大いに交わってくださいました。婦人たちは、時に、ペランデル先生のお部屋に集まり、先生の得意なケーキの作り方・手芸等々に目を輝かせました。ペランデル先生は、飯田の山あり、谷あり、川ありの地形に魅了され、飯田教会に赴任することを決められたとお聞きしました。そんな、自然豊かな土地に私たちは、根付き、教会の福音に感謝しつつ歩んでいます。また、ルーテル幼稚園(現在は認定こども園)を、併せ持つ教会もあります。

秋のルーテル感謝祭には、教会の女性たちは、一致団結して、力を發揮します。一人の力はわずかでも、まとまった時の力は、



大切な着物で記念撮影*

心強さを感じ、感謝の気持ちを新たにいたしております。教会へ、足を運ぶことが困難になっている教会員・体調がすぐれない方、その方々を含め、全員に、季節のあれこれ・福音を伝える言葉を盛り込んだ教会通信を毎月送ります。

婦人会は、第三日曜日の礼拝終了後に、昼食を共にしてから、開かれます。讃美歌・女性会連盟の聖書研究の読み合わせ・渡邊牧師からのお話と続きます。役員から、教会のいろんな行事の内容をお聞きし、女性会としてできることを話し合い、動いています。



百年前、フィンランドから来飯、伝道されたサオライネン師のお孫さんご夫婦と共に*

❖ 被災地訪問に参加して



藤が丘教会* 石田 とも子

今回の旅で「ルーテルさん」と親しみを込めて話す地元の人々の声を聞き、ルーテル支援で建った立派な漁業倉庫等を拝見し、現地で実際に支援に携わった方々のご努力とその実りを実感しました。

今回特に印象に残ったのは初日の大川小跡地。そこは北上川河口から3.8キロ。悠々と流れる川と緑の山(そして以前は集落に)囲まれたのどかな田園風景の中に、命の息吹を失った校舎の廃墟が異様な姿を現わす。災害はごく普通の日常の場に突如やって来る事を思い知らされます。

広い校庭とプール壁の鮮やかな絵が以前は子ども達の元気な声が響いていた事を想像させ、捨じられた渡り廊下や赤茶けた壁と柱・屋根の残骸だけが青空の下、そこだけ暗くたたずむ光景が84名(子供74名大人10名)の尊い命を奪った現実を突きつけてきます。

大川小で小6の愛娘を失われたSさんに話を聞きました。(悲しみの現場に立ち、その辛い体験を語る胸中は如何ばかりでしょう。)校庭の目の前はシイタケ作りで行き慣れた山。「山へ逃げよう」と訴えた子もいたと言います。『そんな状況の中、不安におののきながら校庭に待機させられた子ども達の50分の思いを考えて欲しい。この場所に居た数々の尊い命の存在、そしてここでその命が奪われた事実を後世に伝えねば』とのSさんの真摯な思いが伝わってきます。決してそ

の時の教師を責めているのではない。しかし『人間にとて何が大切なか、何を守るのか。「呴嗟の時命を守る」と言う意識を皆が持つて欲しい』と言うSさんの率直な言葉を受けとめねばと思います。

この旅で小泉牧師の『被災者や遺族の話をして震災で亡くなつた方の声を聴き「死者を悼む」事を覚えてゆかねば』と言う言葉が胸に残ります。

3日間、現地で多くの方々の穏やかな明るさに接して感じた事があります。震災で大切な人や物を失い、辛く耐え難い体験に心が打ち碎かれ、乗り切れられない悲しみを抱えつつも、それでも尚、前を向いて一歩一歩歩もうとする人間の底力、生きる力。その中に神様の働き・神様の愛が現れているのではないか。その事を教えられた旅でした。現地でお会いした方々、主催の女性会連盟に感謝致します。



シャロンの花 を訪ねて Vol.5

年齢も職業もさまざま…会を通して親睦が深まる

市ヶ谷教会* 平井 裕子

市ヶ谷教会女性会は、イエス様を心から愛し、喜びを持って奉仕するマルタにちなみ「マルタの会」という名称で1974年に発足しました。教会員が一同に会する昼食会は、それ以前から始められ、途絶えることなく現在まで続いています。毎月第三日曜日には、壮年会と合同で女性会連盟会報の聖書研究を用いて、聖書の学びの会を開いており、時には議論が伯仲することもあります。

例会では、役員会報告、東教区女性会・女性会連盟からの連絡事項などをお知らせし、活動計画を話し合います。各種コンサート、催しものなどでコーヒーショップを出店、夏には教会内限定のミニバザーを開催し、それらの収益をマルタの会が支援する団体へお送りしています。教会の働きとして行われているプレイヤーショール(祈りをこめたショール)の活動にも会員が編み手として参加しています。

様々な事情で教会に来られない



“みんなが繋がる昼食会”準備*

会員には、その方の誕生月にメッセージ、署名を添えてカードを送っています。お返事をいただき、久しぶりで会員同士の交流ができることもあります。このカードを送る活動は、イースター、クリスマスにはその規模を教会全体に広げていますが、それもマルタの会が中心になって行っています。東教区女性会が一日神学校で販売する手芸作品などは、有志が集まっておしゃべりしながら、和気あいあいのうちに製作しています。年齢、職業もさまざまな会員で構成されていますが、会を通じて親睦が深まり、各自それぞれの都合に合わせて活動に参加しています。



愛と喜びを持ち奉仕する～マルタの姉妹たち*

❖「施設で生活するとは」

*社会福祉法人東京老人ホーム
特別養護老人ホームめぐみ園施設長 高橋 瞳

私は、東京老人ホームにある特別養護老人ホーム(以下特養)めぐみ園の管理者をしています。特養で生活をしている方を見ると、いつもニコニコしている方、そばに行くと長くいろいろなお話をする方、小さな声で「ダメなんです」と話す方、いつも怒っている方、無表情で周りを眺めている方いろいろおられます。

この方々は何故特養で生活をしていて、何を思っているのでしょうか。仕組みを考えると“介護保険の認定で要介護3以上の介護が必要な方が、家族の介護や介護保険のサービスでは自宅で生活を続けられなくなったので申込みをして、判定会議で利用が了承されたから”となります。つまり多くの方は、施設での生活を人々望んで施設で生活をしているのではありません。そのため、いろいろな思いがあるのでしょう。

少し前の調査ですが(内閣府の健康に関する意識調査2012年)、「日常生活を送る上で介護が必要になった場合に、どこで



介護を受けたいか」という問い合わせに対し、60歳以上では「自宅で介護して欲しい」が最も多く、さらに「治る見込みがない病気になった場合、どこで最期を迎えるか」という問い合わせでも医療施設を抜いて「自宅」が最も多い結果でした。しかし現実は必ずしもそうではありません。

高齢者の多くは、人生の最期の時を迎えると、心身の衰えを実感し、社会的な役割を失い、経済的にも自由でなくなり、身近な人との死別、といったさまざまな喪失を体験します。わたし達は、仕事や子育てなど目の前にある“やらねばならないこと”がたくさんありますが、そういった目標もなくなり、“何のために生きているのだろう”と感じることが増えてきます。それでも新しい事は受け入れられず反発し、徐々に孤独を感じるようになることが増え、せめて家族に迷惑をかけたくないという気持ちから、最終的に施設で介護サービスを利用することを決断する高齢者が多いのは事実です。本当は愛する家族と一緒に生活をしたいと考えていてもです。

*P9へ続く… ↗

シャロンの花 を訪ねて Vol.5

田園調布教会女性会の歩み

現在の田園調布教会の女性会「ルディア会」は、教会設立時にマリア会として発足し、その後附属幼稚園の母の会と共に近隣との交流としてバザーなどを行ってきました。聖書研究も一緒に行きましたが、時にはピクニックと称して遠出をすることもありました。女性は教会の良き担い手として働いてきたのです。当時の諸先輩方は年毎に帰天され、また現在は高齢化が顕著で、一人では教会に足を運ばれるのが難しい方も多くなりました。母の会は「いずみ会」と改名、いずみ会からは数名受洗者が与えられました。それぞれ、フィリア会、ルディア会と改名、現在に至っています。

現在のルディア会は第3主日礼拝後定例会をしております。出席人数は少數ですが、連盟からの報告、会員消息、情報交換と和気藹々の交わりのひと時です。また隔週金曜日に聖書研究があり恵みの時を



女性会の歩みを導く礼拝堂*

田園調布教会 *野村 和子

持ち、後に手仕事をしています。数年前までは礼拝後「うどん亭」と称し田園調布の昼食はうどんね、と知れ渡っていました。ご存知の方もおられるでしょう。これも高齢化とともに隔週になり、コーヒーショップ(フェアトレードを広めるため)と、ランチショップ(フィリピンの子どもの里親のため)になりました。幼稚園フィリア会とは園行事の手仕事やバザーの折に交流、若いエネルギーを頂き楽しい交わりの時を持っています。若い方は仕事を持ち礼拝に出席するのが精一杯という社会情勢ですが、神様から賜った灯火を伝承できるよう願い、一歩ずつ活動していきたいです。



大切な灯火をいつくしみ伝えたい*



↓

本来、介護が必要ならば社会福祉の制度を活用し、十分なサービスを利用すれば、まだまだ一緒に暮らせるはずにも関わらず、現在の介護保険の仕組みでは不十分であり、国は「自分でもっと頑張りなさい、家族やその他の人たちの力を借りて…」といいます。介護保険の始まりの時は、「介護の社会化」を目指すところで、家族は介護から解放されるはずでした。残念ながらこれからもそのようにはならない見込みです。

施設での生活を選択するということは、集団生活の約束事があり(以前に比べよくなっていて、選択もできるようになってきているのですが)、さまざまな点で管理されていることを感じるでしょう。また、お風呂やトイレ介助等は羞恥心に関わる介護になります。「朝ですよ」「お食事の時間ですよ」(食事は食堂へ)「おトイレは大丈夫ですか」「今日はお風呂の日ですよ」(週2回の入浴)と声をかけられます。

“自分はどのようにここで生活をしたいか”を、職員と一緒に考え、ケアプランを作成します。どのようなケアを受けたいかを決めるのです。しかし、自身でさまざまなことを主張するのはなかなか難しく、家族の意見も聞いて決められています。

自分が最期の時期にどのように生活をしたいか、十分に説明できることが大切になりますから、その時に望む生活するために「自分はこうしたい」という事をご家族に伝えていえば安

心です。よく話を聞いてもらい、自身の望みがかなうケアをしてもらえば、そこに信頼関係が生まれ、トイレの介助なども任せられる関係に近づくし、それが出来るための私たち専門家です。それでも「自分らしさ」を守って生活をすることは大変かもしれません。

そして、いよいよ最期のときに、多くの方は医療機関に入院せず、めぐみ園の自身の居室で過ごされることを望むようになりました。同じフロアの知り合いや関わる職員、そしてご家族に見守られながらその時を迎えます。

東京老人ホームは関東大震災のとき、ルーテル教会が、目の前にいる被災して家や家族を失った高齢者に手を差しのべ始めた事業ですが、それから90年以上の歴史の中で実際の扱い手は“教会”から“社会福祉の専門家”である私たちに託されました。ホームの介護職員の多くは専門的な勉強をして介護の資格を持っています。しかし、それだけではありません。その上で、理念に基づきその時代に即した「キリストの教える愛」の業を行ってきました。職員も「死んだらおしまい」ではないことをこの看取りケアの中で感じているでしょう。利用者ご自身の口からはなかなかお聞きすることはできませんが、ご家族から「めぐみ園でよかったです」という言葉をお聞きすると、めぐみ園を選んでいただいてよかったです」と感じます。



*写真データ:
東京老人ホームホームページより掲載



*第4回女性の集い(2016年10月15日於 東京教会)第2部講演:「介護される側の実際と意義」を先の伊藤早奈牧師のメッセージに続いて、シャロンの花だよりにぜひ残したい旨を高橋睦施設長にお願いしたところ、ご多用にも係わらず快諾してくださいました。心より感謝いたします。
「施設で生活するとは」は、第3回会長会＆女性の集い第2部講演:小勝奈保子牧師「介護する側の実際と意義」と連動した“介護シリーズ第二弾”の展開編としてどうぞご覧ください。

◆東京老人ホームではボランティアを募集しています◆

……少しでも時間と関心のある方は、ぜひ、ご一緒に活動しませんか。ご参加をお待ちしています。……

……◆ボランティアの現状と活動内容:全体38名中ルーテル教会員:25名、他教会員:2名、地域の方:11名。……

……◆入浴介助、趣味の活動の補助、洗濯物の配布、その他・随時来館できる日・時間に活動する。……

……お問合せ:ボランティア世話人代表/大森はつ子姉(むさしの教会)、古財悦子姉、高元千恵子姉、三五康子姉(保谷教会)まで……

DVからの回復 身近にあるDV…

あなたは？わたしは？

● ● ● ● ● ● 気付きとコミュニケーションは癒しの大きな力です

講師：NPO法人レジリエンス
代表／中島幸子氏・副代表／西山さつき氏

9月2日（土）講演会 於：東京教会

1



DVからの回復
身近にあるDV…あなたは？わたしは？

中島 幸子 NPO JP 西山 さつき
NPO法人 レジリエンス
Resilience
www.resilience.jp

2

レジリエンスと
は

「回復力」「マイナスをプラスに変える力」
「より良い自分を作る力」「逆境で耐え抜く力」

傷つきによって一時的に見えなくなる場合も
あるが、
誰の中にも必ずある力



Resilience

Resilience

3

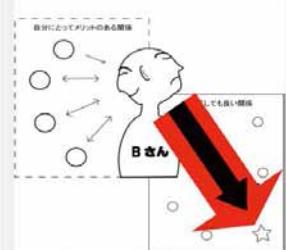
◎ 良い関係性に必要な要素

- 平等で対等である
立場の違いはあるかもしれないが、人の価値は一人一人変わらないという考え方のと、一方的な権力などが存在しない。
- 尊重し合えている
相手の意見も、自分の意見も、相手の都合も自分の都合もどちらも大切にすることができる。
- 安全感、安心感がある
暴力や脅しがない。暴力とは、身体的なものだけではなく、精神的、性的、経済的なども含む。境界線を侵害され続けることもない。それぞれが自分らしさを保てる。



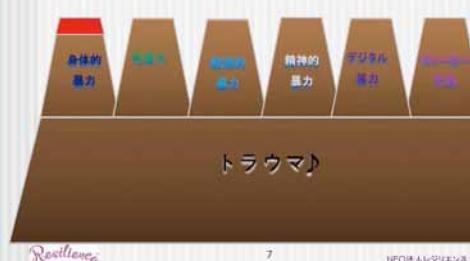
4

◎ パワーとコントロール、そして暴力



7

◎ 暴力の種類



9

◎ DVのサイクル



8

◎ ノーマライゼーション

ノーマライゼーションとは
「みんなノーマルだ！」
という考え方

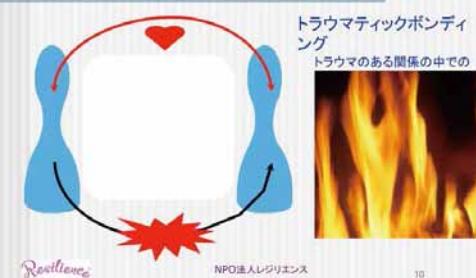


Resilience

8

10

◎ 混乱について トラウマティックボンディング



5

◎ 暴力の責任

★ B

問題の解決方法
として暴力以外の
手段は必ずある

Resilience
解決方法
「問題」ボックス

NPO法人レジリエンス

- 片付けが下手
- 遅刻する癖がある
- カッとなつたから
- イライラしていたからなど

6

◎ 支配があるかのチェックリスト

傷ついたあなたへ～わたしを大切にすること～
レジリエンス刊 著の本著より一部抜粋・編集

- ●●の言うことは絶対だ
- 自分の希望を●●に伝えるのはとてもエネルギーがいる
- ●●が帰ってくると緊張する
- ●●を恐れている
- ●●がいる前で電話をしたくない
- ●●を待たせることはできないと思っている
- 自分がどう感じるかよりも●●が怒らないかが基準になっている
- ●●の言動に意見できないと思っている
- たとえ間違っていると思っても、●●に同調しなくてはならない
- ●●に自分の本音は絶対に言えない
- ●●が怒りだすと、なんとかなめようとしてしまう
- ●●が機嫌が良い状態であるためにはどんなことでもすると思う
- どんなに自分が楽しんでいても●●の機嫌が悪くなるとも楽しむことはできない
- ●●がついたうそがばれるのが怖くてしまうがない

Resilience

NPO法人レジリエンス

11

◎ 耐性領域を知る

(fight & flight & freeze) Polyvagal theory S. W. Porges



闘争/逃走（逃げるか、戦うか）



社会的関わり



固まる 凍りつく

11

NPO法人レジリエンス

12

◎ Relational Health(リレーションナルヘルス)

(Bruce Perry, 2017)

- 傷つき経験はリレーションナルヘルスを減らしてしまう
 - ・ コルチゾールの影響、オキシトシンの低下
 - ・ Bさんが☆さんを孤立させる
- ・ リレーションナルヘルス(つながり)を増やすことの大切さ



Resilience

12

NPO法人レジリエンス

● これからの予定・ご案内 ●

● 第6回東教区女性会 “女性の集い”

『新しい歌を主に向かって歌おう♪』

今期女性会主題を基に、豊かな賛美をしましょう！

日時：2017年10月21日（土）10:30～15:30

会場：日本福音ルーテル本郷教会

開会礼拝：安井宣生牧師（本郷教会牧師）各協力委員他のアピール

第2部：ゴスペル＆手話賛美のワークショップ

①ゴスペル指導：塩谷達也氏 シンガー・ディレクター・プロデューサー

②手話指導：竹内明美氏 大森ルーテル幼稚園教諭・副園長

● ルターナイツ vol.8

主題「キリストに結ばれて」

～あなたがたはキリストにおいて満たされているのです～

日時：2017年10月29日（金）17:00（開場16:30）～21:00

会場：日本福音ルーテル市ヶ谷教会

参加費：2,000円（1ドリンク500円、震災関連支援金500円含む）

お問合せ：ルターナイツ実行委員会

<https://www.facebook.com/events/256891448167200/>

● 宗教改革500年 JELC・NRK合同礼拝

日本ルーテル教団関東地区・日本福音ルーテル教会

日時：2017年11月4日（土）10:00～

会場：ルーテル学院大学・国際基督教大学礼拝堂

第1部：ルーテル学院大学／子どもプログラム・青年プログラム・展示ブース

第2部：国際基督教大学礼拝堂／記念合同聖餐礼拝・記念コンサート

お問合せ：各教会牧師、合同礼拝実行委員会

● NCC世界祈祷日

スリナムからのメッセージ

主題：～すべて神の造られたものはとてもよい～

日時：2018年3月2日（金）13:30～

会場：日本福音ルーテル東京教会

問合せ：NCC委員／安田、教区女性会／八木・保坂



毎月第3火曜日は「星の家」のおにぎりボランティアです。午後1時から始めて今回は4人で430個を握りました。3年前の初参加の時には800個程握った記憶があります。最近はほぼ半数の量に落ちていますが、これは喜ばしいことのようです。シスターの話では、山谷のみなさんの生活が安定してきているからとのことです。（K.H）

❖ 編・集・後・記 ❖



金木犀が香る中、鈴なりの銀杏に梨に葡萄、田圃では黄金色に輝く穂が風と鳥たちと共に演中。天来の恵みに感謝。6月に開かれた甲信地区女性の集いの帰路に皆で観た「種蒔く人」「晩鐘ミラー作がまぶたに浮かび『全てのことに感謝しなさい』、『収穫は多いが働き手は少ない』との御言葉が立ち上がってくる宗教改革500年の時を覚える今秋となりました。（K.Y）



東教区女性会会報 第91号(23期 第5号) 2017年10月20日

発行人：日本福音ルーテル教会女性会連盟 東教区女性会

発行者/編集：八木 久美 編集：保坂 和子